令和6年度　学校関係者評価

令和7年5月7日作成　　令和7年6月17日　　記載

	自己評価	学校関係者評価
Ⅰ教育理念	主要概念と「温かい看護」の関連性を明記している。新カリキュラム改定で見直した教育理念・教育目標及び3つのポリシーを基に育成したい看護師像を明確にし、教育内容・方法へ繋げている。教育目標と学習目標・実習目標のつながりを学生が周知できるようにしている。（年度初めのガイダンス及び厚生連概論）	自己評価をを尊重します。
Ⅱ教育目標	教育目標は、教育理念の考え方に基づいて立案されており、主要概念を網羅し、教育目的を達成するため具体的な内容となっている。新カリキュラム3年目であるが、教育目標・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーは一貫性をもって繋がっている。卒業時到達目標の結果や実習のまとめ等から学生自身で成長を実感できていると考える。	目標の意識付けがしっかりできています。 学生自身が成長を実感できており、自己評価を尊重します。
Ⅲ　教育課程・経営	新カリキュラムとなり、3年目となった。1年次における講義時間の多さが課題となり検討の結果、基礎分野2科目（計60時間）を2年次へ移行する申請を行い受理された。これにより次年度（7年度）から1年次1205→1145時間、2年次1005→1065時間へ変更となる。1年次の学習時間の確保によって学習効果が上がることを期待したい。次年度は教育課程の変更が学習活動に与える影響を検討していく必要がある。新カリキュラム1回生が看護師国家試験に全員合格したことは、教育課程が学習成果につながっていると考える。ただし、旧カリキュラム生が1名残っているため、学習差異がないように読み替えを行い支援していく。	来年度は新カリキュラムでの評価をお願いします。 アンケート評価結果の倫理規程が作成済とのことですので、自己評価の記載に追加してください。
Ⅳ教授・学習・評価過程	学習内容・評価方法などは学生便覧及び講義要項に明記している。演習においては教員間で協力を得ながら、学生の技術習得の支援を行っている。技術試験に関しては、複数の教員で協議し評価を行い、評価基準の公平性を確認している。臨地実習や学内演習などにおいてもルーブリック評価を活用し学生が目指す視点を明確にしている。昨年同様、基礎看護学を中心にペアlearning（ピア活動）を行い、学年を超えた学習機会を増やしている。令和6年度は再試験の多さが目立った。試験時期・方法の見直し、試験終了後の振り返りを強化する必要がある。	再試験の多さが目立ったとのことですが、今後に向けた方さを伺いたい。（試験時期や方法の見直しとは具体的にどのようなことか）
Ⅴ経営管理	専任教員の確保は、規程数（8人以上）は満たしている。実習と学内指導の兼務型であるため、ソフト面の充実のためにも人員確保をし教育体制を整え、業務改善を検討している。定期の会議は規定に則り運営されている。施設設備としてよりよい学習環境の整備を予算内で行われている。奨学金制度を活用し、厚生連施設への就職につながっている。他の奨学制度にも対応し、学生支援に繋げている。	自己評価をを尊重します。
Ⅵ入学	令和5年度より受験者が減少している。令和6年度は入学試験時期の変更やアドミッションポリシーを反映した願書項目の変更を行った。また、昨年に引き続き高校訪問を多数行い、入学希望者開拓を積極的に行っている。しかし、入学志願者は令和5年度87名から令和6年度72名へ減少している。令和6年度の入学者は33名で定員を満たすことができなかった。今後も引き続き学校訪問を行い、入学試験科目の変更や進路説明会・SNSなどを活用して入学者増加を目指す。	大学志向や少子化の中、多くの学校を訪問されており、学生確保に向けた努力が伺えます。 登校のウリを明確に打ち出してください。就職先が確保されていることは十分な強みになると思います。
Ⅶ卒業就職進学	卒業認定会議で単位の修得状況の把握をしている。また、教員会議、学習支援会議にて学年担当が学習到達度の評価や国家試験対策の状況を報告している。令和6年度の卒業生は26名で全員、国家試験に合格することができた。進学者は0名である。 前年度の卒業生が関連施設に就職している為、看護部長会で状況を把握している。就職説明会や学生祭などに卒業生が来校するため卒業生の活動状況の把握に繋がっている。卒業後も来校が気軽にできるように働きかけを行っている。	卒後に状況を共有できる環境があることは評価できます。
Ⅷ地域社・会国際交流	施設などへのボランティア活動は昨年度よりも緩和され人数制限はあるが参加することができている。学生祭では就労継続支援事業所の活動を活用した取り組みを行った。外国人対応は入学者がいないため該当しない。国際関係論・国際看護・英語（英会話）の講義でグローバルな視点を育成している。	自己評価をを尊重します。
ix 研究	令和6年度の研究発表等の実績はない。教員の研修会や学会参加は積極的に推奨しており、費用の補助も行っている。令和5年度も教員全員何らかの研修会等には参加している。また、他の学校や施設からの研究協力は可能な限り対応している。学校としての研究が進められるようにすることが今後の課題である。	努力されていると思いますので自己評価を尊重します。 データの見える化ができると良いと思います。 今後に期待します。

※学校関係者評価委員会　　場所：本校

委員長　　内糸ちえ子（外部有識者）
委員　　小松久美　（JA静岡厚生連清水厚生病院看護部長）
委員　　梅原　雄一　（静岡県厚生農業協同組合連合会　人事課長　）

事務局　中田昭子　（学校長）
白鳥太亮　（事務長）
秋岡亜希　（教務主任）